

# 豚の系統造成

## 1 概要

- 本県は肉豚生産の主要な3品種(ランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種)に自県の系統豚が使われている唯一の県であり、系統豚を用いた三元肉豚生産体制が確立されている(普及率65%)。
- 系統豚は高能力で高い斉一性を発揮するが、長期間維持すると近親交配による能力の低下が進むため、定期的な更新が必要である。
- 平成28年度に、大ヨークシャー種の「アイリスW3」を完成し、引き続き「アイリスナガラ」の後継となる**デュロック種の新系統**の造成に取り組んでいる。

系統豚・・・(社)日本養豚協会が認定。繁殖性等の能力が高く、血縁の近い集団(いとこ程度)。系統豚を使って作られた豚肉は品質が安定

## 2 大ヨークシャー種新系統「アイリスW3」の特徴

- 「アイリスW3」は「アイリスW2」(平成15年度完成)の持つ産肉性と体型を維持し、繁殖性(産子数・哺乳能力)が「アイリスW2」より向上している。

### 「アイリスW2」と「アイリスW3」の能力比較

	総産子数(頭)	離乳時総体重(kg) 注1	背脂肪の厚さ(cm) 注2	1日平均増体重(g)	体型	乳器
アイリスW2(完成時)	11.2	53.6	1.6	829.8	良好	良好
アイリスW3	11.6	60.3	1.9	889.8	良好	良好

注1: 離乳するときの母豚1頭分あたりの子豚体重総量。哺乳能力の指標となる。  
注2: 枝肉の格付けに影響する形質。厚すぎても薄すぎても格落ちしやすい。

哺乳能力が高いため、離乳時の体重が大きい

## 3 デュロック種新系統の造成

- デュロック種新系統は、平成28年度に農家・関係団体等の意見を取り入れた育種目標を設定。その目標に沿った「もと豚」を国内外から導入し、造成を開始した。完成目標は平成34年秋。

	1日平均増体重(g)	背脂肪の厚さ(cm)	ロース断面積(cm <sup>2</sup> )	筋肉内脂肪(%)
アイリスナガラ(完成時)	1,016	1.9	40	—
デュロック種新系統	1,020以上	1.6	40	6(暫定値)

意見・要望

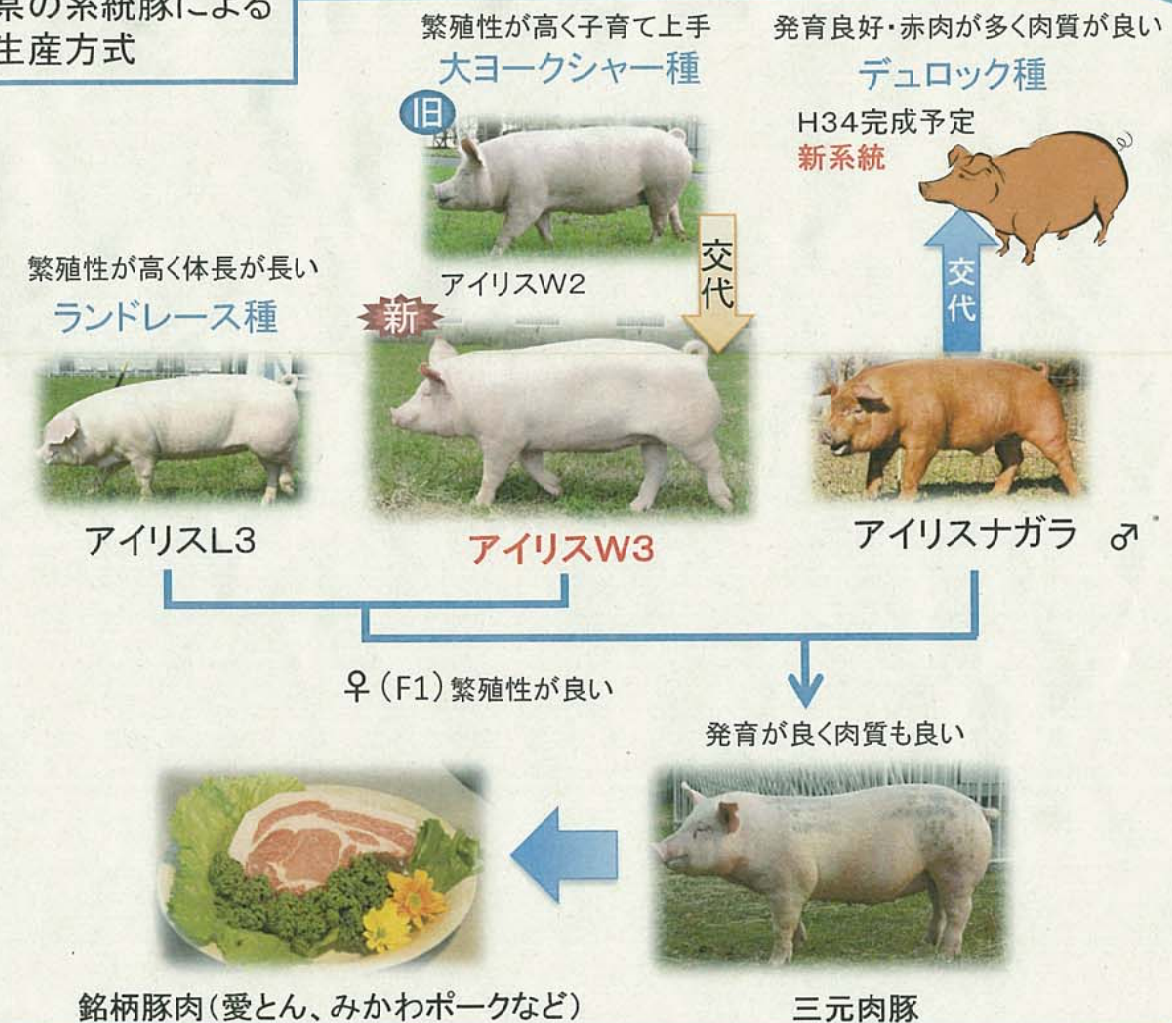
増体(発育)の向上

ロース断面積現状維持

背脂肪を薄く

筋肉内脂肪6%程度

## 愛知県の系統豚による肉豚生産方式



## 4 今後の予定

### ①アイリスW3

- ・ 平成29年秋 畜産総合センターから農家への譲渡開始
- ・ 平成30年春 農家でのF1誕生(発育後、秋頃に交配)
- ・ 平成31年春 「アイリスW3」を用いた三元肉豚が誕生
- ・ 平成31年秋 三元肉豚が出荷開始、豚肉として消費者の元へ

### ②デュロック種系統造成

- ・ 平成34年秋 造成完了、畜産総合センターへ移管